

としょかんふれんず千葉市

شؤون المكتبات في مدينة
تشيبا

第88号 2025. 11. 20

شؤون المكتبات في مدينة
تشيبا



進歩するAI技術がもたらす著作物への影響

代表 皆倉 宣之

最近AI(人工知能)を駆使した技術の進歩は目覚ましく、それによる経済効果により世界的な株高の牽引役となっています。しかし他方では、その技術の進歩が思わぬ領域で深刻な問題を引き起こしています。一次的には著作権との絡みが問題とされますが、更には人間の文化的創造とは何かが問われ兼ねない課題を提起しています。

その契機となったのが今年10月、OpenAI社が発表した「Sora2」です。テキストから動画を生成するAIツールの最新版です。プロンプト(指示文)を入力するだけで、まるでプロの映像制作スタジオが作ったような高品質な動画を、スマホ一つで生成できる代物です。

すると早速同AIを用いて生成された画像・映像がSNS等で公開・送信されるようになりました。これらの画像・映像の中には、著名な創作物や表現への依拠性・類似性が強く疑われるものが散見されました。

さらに問題なのは、OpenAI社は「Sora2」において、著作権の根幹にかかわる権利者からの明示的な「オプトアウト」(個人情報の利用などを企業などに対して、承諾しない意思を示すこと)の申請がない限り、著作物が生成・公開・公衆送信されるシステムを採用していることです。

この状況をみて主要出版社(講談社、新潮社、KADOKAWAをはじめとする出版社17社)と関連団体(日

読書会「俳句の本を読む」(第80回)
日時:2025年12月14日(日)14時~16時
会場:中央図書館 グループ研修室
課題本:『夏井いつき、俳句を旅する』
夏井 いつき(悟空出版)2022.3出版
千葉市図書館に1冊所蔵
(前回の報告は8頁)

もくじ

第22回中央図書館読書まつり.....	2~3
千葉市生涯学習部・教育指導課面談報告...	4
あ・した図書館	
「出版・流通・書店・図書館にまつわるお話」...	5
横橋貝塚発掘100年祭.....	6~7
チャリティ古本市の「募金」で地区図書館に本を寄贈...	9
図書館シテル?トショカンしよう!	
「子どものときの読書について」.....	10
YA「飽きっぽいぼくと小説」.....	11

本漫画家協会、日本動画協会)が、10月31日に共同で、同社に対し「生成AI時代の創作と権利のあり方に関する共同声明」を発表しました。骨子は①学習段階と生成段階の両方で権利者の承諾を得ること(「オプトイン方式」の採用) ②学習データの透明性を担保すること ③権利者への適正な対価還元を行うこと、などです。

以上触れてきた事態は、AI時代における公正で透明かつ持続可能な創作環境をどのように構築し維持してゆくべきかという、困難で未知の問題を孕んでいます。著作権を含む法的問題にしても、従来の著作権法は人間が創作することを前提としていますので、AIが独自に創作に関わる時代になったいまもそのままいいのか、という問題もあります。

最後に考えたいことは、さらにAIが進化していった先に何が起きるかということです。AIによって誰もが創作できるようになったら、真の創作者が分からなくなるか存在しなくなる、ということが起きる可能性があります。これにより文化の停滞若しくは消滅を招くかもしれません。全くの杞憂であればいいですが。



としょかんふれんず千葉市

第22回あそぶ・しる・たのしむ図書館

「出てくる出てくる、とめどなく出てくる
出版・流通・書店・図書館にまつわるお話」

日時:2025年12月18日(木)10時~12時
会場:千葉市生涯学習センター3階 研修室1
講師: 能勢 仁氏
(出版・書店経営コンサルタント代表)
詳細は5頁をご覧ください。

令和7年度 第22回読書まつり
千葉市中央図書館
2025年10月19日(日) 9時30分～15時30分

今年は例年より早く10月の開催でした。開催時間も9時半からとなり、開館と同時に子どもたちの声が響きました。新しい試みとして、アンケート用のQRコードが印刷されたチラシには、いろいろな催し物がありました。

その中から一部を紹介します。

＊生涯学習センター アトリウムガーデンの催し物＊
【フルートと本のミニコンサート】

「青い空に絵をかこう」の曲が終わると、図書館員が『星と星座の動き』『にゅうどうぐも』『空の探検記』などの空のイメージや雲や星座に係する本を紹介しました。「紅葉」の曲では、秋にお勧めの本、栗のお菓子の作り方の本として『わたしのもみじ』『秋のスイーツ おしゃれでおいしい! 季節の手作りスイーツ』『きのこのこのこふしぎのこ』などを譜面台に展示して、図書館ですぐ借りられますと紹介。何人かの子どもたちが「この本借りたい」と前に出ました。クラウンすみちゃんも登場し、多くの家族が楽しんでいました。

【フルートと本のミニコンサートで紹介された本】

『シャーロック=ホームズ全集』コナン=ドイル 偕成社
『名探偵シリーズ』杉山亮 偕成社
『ぼくはめいたんていシリーズ』マージョリー・W・シャーマット 大日本図書
『ルルとラウの手作りスイーツ 秋のお菓子』あんびるやすこ監修 岩崎書店
『わたしのもみじ』ポプラ社
『秋のスイーツ おしゃれでおいしい! 季節の手作りスイーツ』金の星社
『星と星座の動き 季節や時刻で見える星座はちがう』ほるぷ出版
『にゅうどうぐも』野坂勇作/さく 福音館書店
『こんにちは! わたしのえ』はた こうしろう/作 ほるぷ出版
『シオドアとものいうきのこ』レオ=レオニ/作 好学社
『きのこのこのこふしぎのこ』ひさかたチャイルド
『木管楽器』佐伯茂樹 小峰書店
『カエデ(モミジ)の絵本 まるごと発見! 校庭の木・野山の木』田中浩/編 農山漁村文化協会
『あきのおさんばいものいくつ?』おたぐろまり 福音館書店
『南の島』長倉洋海 偕成社
『空の探検記』武田康男 岩崎書店
『ヤマネコ号の冒険 上・下』アーサー・ランサム 岩波書店
『楽しいオーケストラ図鑑』東京フィルハーモニー交響楽団 監修 小学館
『おんがくかいのよる』たしろさとし ほるぷ出版
『おんがくねずみジュエルディン』レオ=レオニ 好学社



【中学生による発表】

椿森中学校図書委員9人がおすすめの本をスライドも使って紹介しました。今回のテーマは「千葉開府900年」に絡めて、「千葉市にゆかりのある作家の本」でした。

『トリセツ・カラダ』海堂尊 『ぼくのまつり縫い』神戸遥真 『かがみの孤城』辻村深月 『むかしむかしあるところに、死体がありました。』青柳碧人。この他にも椎名誠さんや彩瀬まるさん等の本も紹介されました。

【外国語おはなし会】

神田外語大生が行いハロウィンの仕掛け絵本を使って参加者と問答するなど盛り上がりしました。

＊生涯学習センター地下1階 スタジオ＊

【高校生が語るおはなし会】

桜林高校生3人による手遊びと絵本の読み聞かせが行われました。絵本は『ぐるんぱのようちえん』『たまごのあかちゃん』『ぞうくんのさんぽ』。桜林高校は若葉図書館の読書まつりでもおはなし会をしています。

＊中央図書館での催し物＊

【ぶんこ・文庫・ぶんこ】

おはなしのへやでおはなし会を、その周りで「クイズ・折り紙」を催していました。絵本クイズでは展示してある多くの絵本の中からお目当ての本を探し、真剣に取り組む親子の姿がありました。

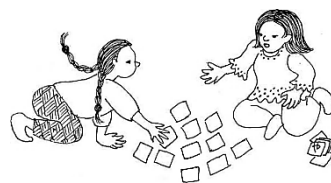
【やってみよう! 点字体験!】

たくさんの親子が並んで順番を待ち、「点字器」と「点筆」を使って自分の名前を書く体験をしました。点字器に点字紙を挟み各枠にある凹みに点筆を上からまっすぐにおろし、6つの凹みの組み合わせで字を作ります。一文字を打つのに6回も鉄筆を打ち込む字もありました。

それぞれの催し物で、図書館員の方が多くの本とつながって、世界を広げる橋渡しをしていることは、とてもよかった。各イベントに参加して体験できるものは、進んで参加することでより楽しめて、大変さもわかって理解が一步進むことを自ら体験しました。(運営委員)

中央図書館読書まつり としょかんふれんず千葉市
「知ろう あそぼう かるた」

参加者:子ども 77名 大人 67名 計 144名



「犬も歩けば棒に当たる」「論より証拠」子どもの頃遊んだ「江戸いろはかるた」。昔は正月になれば兄妹や友達と競い合ったかるた遊び。

私たちの会は今年度の中央図書館読書まつりで、日本の伝統文化の一つ「かるた」を選び、その歴史を掘り下げ、解り易く描き、壁面に掲示。「知ろう あそぼう かるた」をテーマに参加した。

グループ研修室にて、中央図書館所蔵の書籍、資料として保管されているかるた、また会員所有のかるたを展示し、かるた取りあそびを楽しんだ。

親子で参加したお父さんはかるた取りではなく、掲示してあった「かるたのれきし」を熱心に読み「ふむふむ」。お母さんはこどもが選んだかるたを読み「ほらほらそこよ」と目くばせ。兄弟で参加した弟は兄ばかり札を取るのに悔しくて泣きだす。これぞ遊びではなく「かるた取り大会」と準備した仲間はにんまり。



かるた取りは展示したかるたの中から参加者が選んだ。「はらぺこあおむしかるた」「千葉市のふれあい子どもかるた」が多く選ばれ、次いで「11ぴきのねこかるた」「ぐりとぐらかるた」「わにわにのかるた」。



「江戸いろはかるた」を選んだ親子は1組。読み手は若いお母さん、「かつたいのかさ瘡うらみ」「子は三界の首

枷」かせ「すい粋は身を食う」は読めません。ましてやその意味も理解できません。若くないスタッフも難しい。江戸時代の子どもたちは、いえ、昭和の私達も子どもの頃は意味も解らずこのかるたで耳にタコができるほど競い合って遊んだ。お陰で後々これらの諺の意味が少しずつ理解できるようになった。

「百人一首」を選んだのは1組。字札を並べ親子で頭を付け合わせて本番さながらの競技。この時の和歌の読み手は主催者の一人が担った。和歌を読むのはとても大変。でも流石に上手で周りの人々は皆感心した。坊主めくりばかりで遊んだ者には大変うらやましい親子の姿であった。



現在かるたは郷土の歴史を知る、土地の言葉を楽しむなど、カード48枚に込めた言葉、その文化は日本語の基礎なればこそ今後も楽しく期待できるツール。今回人気だった「絵本かるた」は、子どもたちがかるたを取りながら、その絵本の場面を思い出したりしていたのではと、私たちはうれしく見守った。(運営委員)

【展示した千葉市図書館所蔵のかるた】

生浜郷土カルタ	ちば・生浜歴史調査会 2008.1
千葉市南部の郷土カルタ	ちば・生浜歴史調査会 2008.12
縄文かるた	ほおじろパソコン倶楽部 2014.10
どうぶつかるた	千葉市動物公園 2010.11
どうぶつかるた 2018	千葉市動物公園 2017.11
三番瀬かるた	自然と文化研究会theかもめ 千葉県立中央図書館/監修 2007
千葉農産物いろはカルタ	JAグループ千葉 2002
千葉市郷土カルタ	武田宗久/監修 千秋社 1976.12
千葉市立誉田小学校 140周年かるた	千葉市誉田小学校 2013.10
チーバくん ふるさと・ことばかるた	千葉県教育委員会/監修 2012.4

今回も中央図書館 YAコーナー手前の壁面に〈としょかんふれんず千葉市〉のこれまでの活動を掲示した。またこれまでの会報を閲覧用と持ち帰り用に設置した。



千葉市生涯学習部長との面談

日時 2025年10月27日(月) 11:00~12:00

会場 市役所本庁舎4階 会議室

出席者 大塚暁生涯学習部長

志保澤生涯学習振興課長

大西生涯学習振興課長補佐

栗山生涯学習振興課長主査 他1名

としょかんふれんず千葉市運営委員 7名

着任された生涯学習部長に抱負や取り組みなどについてお聞きした。

① 新若葉図書館・千城台公民館複合施設の進捗状況について

実施設計が今年度終わり来年度工事に着手する。来年度の予算は確定していないが令和11年4月に供用開始を目標とする。

② 公民館図書室の資料費について

・図書購入費前年度との比較

令和6年度決算額 12,512千円 令和5年度 13,424千円(「2025千葉市の図書館」より)

・公民館図書室は21館あり多少の差はあるが平均52~53万円は最低限確保している。

③ 花見川図書館・こてはし台公民館の管理について

図書館を含む建物全般はこてはし台公民館が管理する。駐車場は花見川図書館が管理。

学校教育部教育指導課面談

日時 2025年10月27日(月) 10:00~10:50

会場 市役所本庁舎4階 会議室

出席者 石戸谷宏美指導主事

運営委員 7名

学校図書館の現状と今年度の取り組みなどについてお聞きした。

① 令和7年度の学校図書館資料費

小学校 40,765千円(107校)

昨年度 44,515千円(107校)

中学校 31,760千円(53校)

昨年度 34,384千円(54校)

特別支援校 740千円(3校)

② 学校図書館指導員の配置状況

指導員の総数108名(昨年度109名)

小学校週4日間配置 37校 週2日間配置 52校

中学校週4日間配置 16校 週2日間配置 22校

特別支援校週2日間配置 3校

小中学校に各2日勤務する小中連携校を昨年の6校から30校に増やし、小学校をより手厚くした。

③ 図書館指導員の研修 年に5回実施

④ 令和6年度の読書量調査結果

・1カ月の読書量 小学校 28冊(前年度18.4冊)

中学校 9.4冊(前年度8.4冊)

質疑応答

Q:実施設計後、市民との意見交換の場があるのか。

A:市民が設計に対しての意見を言えるのは基本設計まで。実施設計の段階では大幅な変更はない。実施設計では建材や照明の当て方や備品調達などは意見が反映される可能性もある。

Q:街づくりの具体的な活性化について(若者を取り込む施策など含め)

A:千葉市の方向性として全体のネットワークが必要。図書館と連携して相乗効果を図っていく。また地域の歴史などと連動させていきたい。世代間での交流や若者に対して取り組み次世代に繋げたい。

その他

・花見川図書館複合化で行われたワークショップでは抽象的な内容で設計や運営に反映されないものだった。利用者の声を取り入れるようなワークショップを何度も行い、設計段階から確実に取り込んでもらいたい。

・窓口業務委託の図書館では、利用者・委託側・市職員の連携がとりにくいことに課題がある。

・アフタースクールは業務委託されていることもあるため、地域との連携が弱まっているように感じる。

(運営委員)

・不読率 小学校 0.54%(昨年0.6%)

中学校 4.57%(昨年1.44%)

⑤ GIGAタブ 電子書籍など学校現場の取り組み

令和7年4月現在、中央図書館の電子書籍の読み放題パックは457冊。調べ学習の本も提供。

⑥ 新聞の配備

小学校 平均 0.76紙(71.9%)

中学校 平均 1.06紙(85.2%)

⑦ 学校図書館の実状、様子など

来年度の千葉開府900年に向けて、盛り上げるための活動を各学校図書館で実施。

⑧ 文部科学省「図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議(第7回)」について

石戸谷氏は、以下のように話された。

学校図書館ガイドラインに、組織体制と役割、資質向上について検討するよう書かれている。学校図書館がよりよく機能するためには校長以下、司書教諭、学校図書館指導員等の役割を明確にする必要を感じた。よく整理し、役割分担表などを作り取り組んでいきたい。

また学校司書(図書館指導員)が教職員の一員として職員会議や校内研修に積極的に参加すること等が謳われており、管理職に折を見て伝えていければと考えている。(運営委員)

お誘い 能勢仁さんのお話を聴く会

普段私たちは意識していませんが、「本」を手にするまでにはいくつかの経路と課題があります。出版（本の誕生）→ 流通→ 書店→ 図書館→ 私たち といった具合です。その経路には出版業界、流通業界など各業界が存在し、その関係が私たちにも、いろいろな影響を及ぼしているようです。ところが、その実態を知ることは難しく、本をこよなく愛する私たちにとって、これら業界の実態を知ることは切なる願いでもあります。

今回は、本が書店や図書館に届くまでの前段階を中心としたお話を、これらの業界に長年関係し精通しておられる能勢仁さんにお聴きしたいと思います。どうぞご参加ください。



としょかんふれんず千葉市 第22回あそぶ しる たのしむ図書館

出てくる出てくる、とめどなく出てくる

出版・流通・書店・図書館にまつわるお話

講師 ^{のせ まさし} 能勢 仁さん（出版・書店経営コンサルタント代表）

昭和8（1933）年千葉市生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。高校教師を経て、(株)多田屋、(株)ジャパン ブックボックス、(株)アスキー、(株)太洋社と出版界に勤務。平成8（1996）年、書店経営のコンサルタント会社「有限会社ノセ事務所」を設立。著書に『本と読者をつなぐ心』（遊友出版）、『明治・大正・昭和の出版が歩んだ道』（出版メディアパル）など多数。

日時 2025年12月18日（木）
10:00～12:00（開場 9:40）

会場 千葉市生涯学習センター 3階 研修室I
千葉市中央区弁天 3-7-7 TEL043-207-5811

会費 無料

定員 30名（申し込み先着順）

申込み 12月3日（水）までに下記へ

メール furenzu2021@gmail.com

2025年度さつきが丘公民館主催

犢橋貝塚発掘100年祭

2025. 10.25(土)10:00~15:30

会場:犢橋貝塚公園 さつきが丘公民館



会報84号「地域から」に掲載された、「さつきが丘公民館～犢橋貝塚発掘100年祭～」が開催されました。

さつきが丘公民館、千葉市埋蔵文化財調査センター、地域の小中学校、かいつか文庫、さつきが丘公民館サークル、地域の方など多くの方の協力がありました。公民館が培ってきた地域との関係性を生かしながら、学習と活動をおこない、地域作りをしていく。社会教育の場としての公民館ならではの100年祭となりました。

「下総犢橋貝塚遠足会の記」の朗読会では、大正14年の貝塚発掘の遠足会の様子が千葉市埋蔵文化財調査センター西野雅人氏の解説と「かいつか文庫」の鎌田さんによる朗読とのコラボで紹介されました。

まず、敷波義治さつきが丘公民館長は、公民館では5年前から犢橋貝塚の学習会をし、学区の小中学校で犢橋貝塚の授業をした。貝塚がきれいなままで残っているのは奇跡だと挨拶されました。

西野雅人氏による縄文鍋の紹介では、貝塚から大量に出土する巻貝「イボキサゴ」の出汁に、コチ、マダイ、スズキなどの魚介や、イノシシやシカ、アナグマの肉、ドングリなどの食材を鍋にしたもの。西野氏は、アナグマとどングリの鍋が美味しいこと、オオガハスが犢橋貝塚の船着き場から発見されたので、今回の縄文鍋にハスを入れなかったのが残念と話されていました。試食会の縄文鍋はとても美味しかったそうです。

犢橋貝塚発掘100年祭のイベント

＜さつきが丘公民館会場＞

朗読会 下総犢橋貝塚遠足会の記
縄文ワークショップ:縄文しおりづくり/
縄文 組みひもづくり/イボキサゴを使った
おはじき遊び

展示コーナー:出土品

パネル展示/子どもの作品展

さつきが丘東小学校児童の絵画

さつきが丘西小学校児童の俳句

＜犢橋貝塚公園会場＞

縄文グルメ体験:縄文鍋の試食会
縄文人体験いろいろ:どングりつぶし体験/
石器の切れ味体験/動物の角や毛皮体験
/縄文土器づくり実演
地域の方々によるマルシェ

犢橋貝塚発掘100年祭に参加して

少し前から「犢橋貝塚発掘100年祭」でかいつか文庫のスタッフ鎌田さんが「遠足会の記」を朗読すると聞いたので、楽しみに参加してみた。なじみのあるさつきが丘公民館なのだが、行ってみると佳き日を迎えた緊張感が漂っていた。ロビーや廊下、階段などには団地内の2つの小学校児童の作品や調べ学習の成果などが貼ってあり、丁寧に小学校で取り組んだことが窺われた。他にも貝塚でよく見つかったという貝、イボキサゴのおはじきや、組みひもづくり、しおりづくりなど、職員の方々による様々なワークショップが行われていた。地元の役員の方々も協力しているようだった。

「遠足会の記」は10時からと13時半からの2回行われた。10時からの回を聞くことができた。犢橋貝塚まで楽しくハイキングしたというような話なのかと思っていたら、そうではなかった。今から100年前にはじめてこの地に発掘調査に訪れた際の「下総犢橋貝塚遠足会の記」というものが、当時の学会誌に掲載されていて、それをスライドで写しながら朗読するというものであった。館長の司会のもとに30分ほどの講演が行われたが、始めに埋蔵文化財調査センターの方より説明があり、犢橋貝塚が縄文時代の貴重な遺跡だと

稲毛区 ○○ ○○

ということがよくわかった。お昼にふるまわれるという縄文鍋の説明も面白く、ぜひ食べてみたかったが体験できず残念だった。

100年前の遠足会の記は、大変興味深かった。文章もウイットが聞いて面白く、読み方も落ち着いて聞き取りやすく大変楽しめた。発掘隊のメンバーが多岐にわたり、そうそうたる顔ぶれだったことに驚いた。

4000年前の縄文時代に思いを馳せるとともに、100年前の人々の生活や学問に取り組む様子も知ることができた。ちょうど100年後の同じ日にこのような催しを行えたというのは、素晴らしいことだと感じ入った。このような催しがなければ、犢橋貝塚のことを深く知ることなかったであろう。特に地域の方々には、大変有意義な催しであったことと思う。埋蔵センターの西野氏は、この貝塚がここに残っていること自体が奇跡だ、と断言されていた。地域の宝物として守ってほしい。

公民館を出て、貝塚公園にも足をのばすと、テントで物販があり、縄文鍋の準備をしているところだった。どングリクッキーを買って家路に着いた。

朗読会～下総犢橋貝塚遠足会の記～

スライドと解説から簡単に紹介します。

千葉は縄文王国

犢橋貝塚・園生貝塚・加曽利貝塚は縄文王国千葉を代表する巨大な貝塚ムラ。千葉市のシンボル オオガハスの発見地は犢橋貝塚の船着き場。丸木舟と櫓が見つかり、江戸東京博物館に保管されている。犢橋貝塚は住宅地のなかで奇跡的に保存されてきた。歴史的な価値を確認し活用していくための発掘100年祭である。

東京人類学会と遠足会

100年前の日本は、関東大震災から2年が過ぎ、復興が進みラジオ放送などが始まっていた。

明治17年設立、日本最古の研究学会の一つ「東京人類学会」は、会員の親睦を目的とし「遠足会」を開催。珍しいものを掘り当てる競争もあり、次第に学問的関心が高まってきた。会員が参加しやすい千葉県内の貝塚が選ばれ、第3回・5回は加曽利貝塚、東京人類学会40周年となる第7回に犢橋貝塚が選ばれた。『人類学雑誌』には「下総犢橋貝塚遠足会の記」が残され、遠足会の様子を詳しく知ることができた。

遠足会参加者

小金井良精(解剖学・人類学)、松村 瞭(植物学者)など学会をけん引してきた重鎮や、長谷部言人(人類学)、大山柏(大山巖元帥の子、史前学研究所)などの先輩格。「縄文学の父」とよばれる山内清男、世界初の人工雪の製作に成功した中谷宇吉郎と弟の中谷治宇二郎などの若手、地理学・地形学など各分野の研究者やその家族など総勢90名。両国駅を出発し幕張まで電車。その後、約1里の道を徒歩で貝塚を目指した。

発掘

午前10時過ぎ、各自場所を決め発掘が始まる。

江見水蔭氏が「安行Ⅰ式土器」を発掘。

動物学の学生は、埋葬犬を発見し、完全な犬の骨格を得た。地理学の専門家は2m掘り下げ、貝層などの堆積状況を調査。家族で参加し、6,7歳の子どもが発掘を手伝う牧歌的発掘法の記載もあった。

おもな出土品

深鉢形土器(安行Ⅰ式土器)・鹿角製腰飾・石匙

今回の100年祭は、埋蔵文化財調査センターを始め協力者が多岐にわたり、犢橋貝塚の歴史や資料も興味深く、公民館だけでなく、縄文王国として千葉市の行事として行っても遜色ない内容であった。(運営委員)



温かな声に導かれて

花見川区 ○○ ○○

2025年10月25日、花見川区さつきが丘公民館主催の「犢橋貝塚発掘100年祭」の朗読会に参加。百年前の大正14年10月25日「東京人類学会遠足会」として、犢橋貝塚の大規模な発掘が行われたことを知り、貝塚公園という周辺住民の憩いの場所が、縄文時代の人々の暮らしを知る遺跡としても「地域の宝」であることを学ぶことができた。

貝塚公園の一角に、廃バスを活用した“かいづか文庫”があり、毎週土曜日の2時間、地域の子供達に絵本の貸し出しや伝承遊びを通して、憩いの場を提供し、健やかな芽が育まれることを願い会員により運営され、50年近い歴史を繋いでいる。

今回の朗読会では“かいづか文庫”の運営に、携わって来られた、鎌田さんが、温かく穏やかな声で、百年前の「遠足会の記」を、参加者に届けてくださった。

犢橋村の西隣に位置する畑町字神場で育った私の記憶の中では、東西に延びる道(畑町交番から山坂を経て犢橋へと続く道)の真ん中に立って、延々と

続く、さつま芋畑と野菜畑の向こうに広がる雑木林の更に先には、何が在るのだろうと、幼い頃の原風景となっている。秋には周辺を照らす、見事な明月、夏には、山際から昇る入道雲の空を突き破る程の力強い太陽は、今も鮮明に浮かんでくる懐かしい思い出。鮮やかな色彩も、はっきり脳裏に焼き付いている。

小学生の頃、畑町から園生に至る県道は、砂利と石が入り混じった、それは歩き難い道路で、滅多に行くことはなかったが、その中間に、50数年前に新しい街「さつきが丘」が住宅公園により整備され誕生した。

その新しい街、住宅地の中に広大な原っぱの広がる貝塚公園が存在することは、子育て中も、そして今でも心のオアシスとなっている。

犢橋村方面を眺めた時のあの雑木林の向こう側には、何が存在するのだろうかと不思議な思い、感覚を抱いていたが、月明かりの下からは、千年も続いた縄文時代の人々の思い、生活の息吹が、残っていたのであろうと、からんだ糸が少しほぐれるように感じる事ができた秋の一日であった。

読書会報告「俳句の本を読む」第79回

課題本:『『夏井いつき、俳句を旅する』

夏井 いつき(悟空出版) 2022.3出版

日時:2025年10月12日(日)14時~16時

会場:千葉市中央図書館 グループ研修室 参加者 8名



〈口髭の一すぢ白し今朝の秋 森 鷗外〉(1862~1922)

鷗外の句はこの読書会では初めてであった。年譜など調べてみた。文久2年生まれ(後の東京大学医学部)入学時、年齢不足につき2歳を増し、万延元年(1860年)生まれとして願書を提出、以後公にはこの年齢に従う、とあった。また明治21年(1888)妹喜美子東京大学教授小金井良精に嫁す。小金井良精は今回横橋貝塚100年祭で聴いた名前。

〈もう敵機も来ない菜虫をとつてみる 下村槐太〉(1910~1966)

自由律俳人、槐太は生涯にわたって不遇であり清貧に甘んじる生活であった。それでも平和を享受する生活がもう少し長ければと、この句にふれて思う。今年は戦後80年。

〈芋虫を轢いていいかと三輪車 中村阿昼〉(1966~)

1998年俳句集団いつき組参加とある。2009年の俳句コラムに阿昼さんが息子のそうそう君の手をひいて参加とも。著者曰く「蝶や蛾の毛のない幼虫が「芋虫」毛のあるのは「毛虫」。

〈刃を吸うて水蜜桃の輝くよ 家藤正人〉(1986~)

この句を金子兜太は水蜜桃に刃がくい込むと言わず水蜜桃が刃を吸うと捉える鋭い感受性を評価。金子兜太は日本銀行労働組合の専従初代事務局長をしていた。いくつか転勤ののち東京の本店に。「窓際族ではなく、窓奥。1日2-3回開ける本店の金庫番。」55歳定年まで勤めた。『中日新聞』『東京新聞』の「平和の俳句」選者だった。

〈野分してしづかにも熱いでにけり 芝 不器男〉(1903~1930)

不器男は本名。論語の「子曰、君子不器」(子曰く、君子は器ならず一意味;優れた人物は特定の用途にしか使えない「器」のようなものではなく、何にでも対応できる柔軟性を持っている)不器男は1929年発病、入院、この時の句か?翌年26歳で夭折。

〈露人ワシコフ叫びて石榴打ち落す 西東三鬼〉(1900~1962)

歯科医。43歳の時臨月の妻と子供を残して家出。横浜の歓楽街で知り合った女性と神戸に住んだ。当初三鬼は「三鬼館」と呼ばれる西洋館・異人館に住んでいた。そこにロシア人もいたのか。句はそのころの句と思われる。

〈ゆく秋やふくみて水のやはらかき 石橋秀野〉(1909~1947)

夫は評論家山本健吉。戦争による生活苦と病にて一人子を残し38歳で死去した。季語「ゆく秋」を身近に感ずるのは、朝の洗顔の水か、口を漱ぐために含んだ水か、気温と水温の微妙なバランスによる「やはらかき」という感知なのだと著者のいつきさん。

今回は少し時間を延長して季語「秋」の部を終えました。次回は12月14日、冬の季語(p98)からです。

千葉市図書館ホームページより

知ろう 調べよう「東京デフリンピック」

千葉市図書館ホームページの図書館NOW!「キャッチアップ"旬"!!」には、いま話題になっている旬な物事や時事問題などについて調べられるよう、図書館所蔵の資料リストが載っています。

新テーマは11月15日~11月26日開催の「東京デフリンピック」です。

100周年記念大会が日本で初めて開催されるこの機会に、気になった本などを手にしてみては?

ぶっく・ぶく

ねえ一本当?

現行の日本国憲法は国民主権
明治の憲法は天皇主権
ある政党の憲法構想案は
八百万の神 天皇が統治

現行の日本国憲法は
戦争放棄 戦力不保持
ある政党の憲法構想案は
戦争放棄削除 防衛機関設置 自衛軍保持

現行の日本国憲法は[国民の義務]
納税 勤労 教育
ある政党の憲法構想案は
国防義務 夫婦同姓義務

現行の日本国憲法は教育を受ける権利
ある政党の憲法構想案は教育勅語 愛国心

ある政党の憲法構想案、
これ、本当?冗談?遊び?

知ったかぶりこ?

チャリティ古本市の「募金」で 地区図書館に本を寄贈しました！

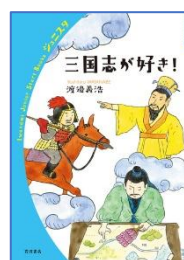
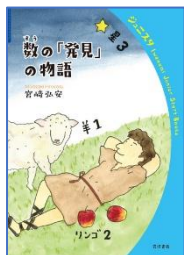
2025年4月29日(火・祝)に開催された第17回チャリティ古本市での募金額118,333円から、今年度は地区館6館とみずほハスの花図書館を対象に、中学生の学習入門シリーズ「岩波ジュニアスタートブックス」から書籍28タイトル 合計70冊を購入し、2025年11月5日中央図書館に寄贈しました。

「としょかんふれんず千葉市」では、2022年度第14回古本市から、お預かりした募金は図書館の資料の充実のため、書籍を購入して寄贈することにしました。(会報72号6頁)

昨年度は千葉市立真砂中学校かがやき分校に国語辞典20冊を寄贈しています。(会報83号6、7頁)

【2025年 古本市の募金から寄贈した書籍】

1. 挑戦する田んぼ 安田 弘法著
2. セカイに漕ぎ出す君たちへの特別授業 ジュニスタ編集部編
3. 運命を変えるチャンスはなぜか突然やって来る 今村 翔吾著
4. ボードゲームづくり入門 高橋 晋平著
5. 数の「発見」の物語 宮崎 弘安著
6. 分身ロボットとのつきあい方 江間 有沙著
7. コミュニケーションの準備体操 兵藤友彦著村上 慎一著
8. 古生物がもっと知りたくなる化石の話 木村 由莉著
9. 中学生からの絵本のトリセツ 川口 かおる著
10. 君の物語が君らしく 澤田 英輔著
11. 「好き!」の先にある未来 加藤 美砂子編著
12. 物語、英語で読んでみない? 佐藤和哉著
13. 恐竜がもっと好きになる化石の話 木村 由莉著
14. 三国志が好き! 渡邊義浩著
15. 10代のうちに考えておきたい「なぜ?」「どうして?」 近藤 雄生著
16. はじめての動物地理学 増田 隆一 著
17. になりたい自分との出会い方 岡本 啓史著
18. 食品ロスはなぜ減らないの? 小林 富雄著
19. 10代と考える「スマホ」 竹内 和雄著
20. SDGs 入門 未来を変えるみんなのために 蟹江 憲史著
21. なんで英語、勉強すんの? 鳥飼 玖美子著
22. 妖怪がやってくる 佐々木高弘著
23. ミライを生きる君たちへの特別授業 ジュニスタ編集部編
24. なぜ私たちは理系を選んだのか 柊太一 著
25. 地球以外に生命を宿す天体はあるのだろうか? 佐々木貴教著
26. 未来をつくるあなたへ 中満泉著
27. 地震はなぜ起きる? 鎌田 浩毅著
28. 地球温暖化を解決したい 小西 雅子著



書誌画像は
岩波書店の HP より



子どものときの読書について

千葉市みやこ図書館長 藤井 学

令和7年4月、千葉市みやこ図書館に配属された私は、秋ごろ、「子どものときの読書について」原稿を書いてほしいという依頼を受けました。ところが、私は子どもの頃にあまり本を読まずに大人になってしまったため、正直なところ、何を書けばよいのかと頭を抱えてしまいました。とはいえ、読書そのものの記憶は乏しくとも、当時の読書環境については鮮明に覚えていることがありますので、まずはそのことからお話ししたいと思います。

私が小学生になった昭和40年代後半、東京都三多摩地区の小学校に通っていました。当時、図書館行政に力を入れていた自治体で、学校には教室二つ分ほどの広さの図書室があり、たくさんの本が所蔵されていました。さらに、小学校低学年の頃には、放課後になると移動図書館が校庭にやってきて、子どもたちはその車から本を借りることができました。高学年になると、自宅近くに児童館が新設され、そこにも図書館が併設されていましたし、自転車で行ける隣の学区にも図書館があり、読書に親しむには恵まれた環境だったと思います。

そんな中で、今でも記憶に残っている読書体験があります。小学校6年生のとき、担任の先生に勧められて読んだ山中恒さんの『ぼくがぼくであること』（岩波書店 他）という児童文学作品です。少年が家出をして冒険するというストーリーで、夢中になって読んだ記憶があります。その本を中学校の学級文庫に持ち込んだところ、誰かが借りて返さず、以降、題名しか覚えていなかった私は、何度も本屋を探しても見つけれず、もう二度と読めないだろうと諦めていました。ところが、みやこ図書館に配属されてからOPACで検索してみると、山中恒さんは映画「転校生※1」の原作者でもある著名な児童文学作家であり、『ぼくがぼくであること』も図書館に所蔵されていることがわかりました。長年の記憶がよみがえり、再

びその本と再会できたことは、私にとって大きな喜びでした。

子どもの読書について、もう少し掘り下げるならば、戦後の児童文学を築いた編集者・翻訳家・作家であり、自立した女性の先駆けでもあった石井桃子さんの言葉を紹介したいと思います。石井桃子さんは「本は一生の友だち」、「子どもたちよ 子ども時代をしっかりと楽しんでください。おとなになってから 老人になってから あなたを支えてくれるのは 子ども時代の『あなた』です※2」と語っています。これは、子ども時代に出会った本が生涯の友となり、人生の節目で語り合える存在になるという意味であり、また、子どもの頃の経験や記憶が人生の困難な時期に支えとなり、希望を与えてくれるという普遍的な真理を示しています。

子ども時代の読書経験は、大人になってからの生き方や自信、価値観の形成に深く関わってきます。だからこそ、図書館は子どもにとって非常に良い影響を与える場であり、より多くの子どもたちに利用してもらいたいと心から願っています。読書の習慣は、人生を豊かにし、未来を切り拓く力となるからです。

※1 映画「転校生」

原作『おれがあいつであいつがおれで』
(旺文社 KADOKAWA 他)

※2 出典『石井桃子のことば』
とんぼの本(新潮社)





YA コーナー



「飽きっぽいぼくと小説」

花見川区 ○○ ○(中学1年)

ぼくは本が好きだ。本が好きなのは確かであるが、同時に飽き性であったために、中々に読み続けられる本が見つからず、探すばかりで全く読むことができませんでした。

ある時にアイヌの伝承に出てくる「コロボックル」と言われている小人を題材にして書かれた佐藤さとるさんの小説にはまってずっと読んでいました。内容は主人公がたまたまコロボックルを見てしまい、そこから仲良くしたりととてもおもしろい話となっています。それでも読んでいくにつれ、だんだんと話が頭に入ってこなくなり、4巻ほどでやめてしまいました。

それからまた自分にあう小説をずっと探して、次に見つけた小説はマーク・トウェインさんが書いた『トム・ソーヤーの冒険』という有名な小説です。中々に長いのにずっと読みつづけられておもしろく、あきませんでした。内容は主人公のトム・ソーヤーが親友のハックルベリー・フィンと夜の墓地で殺人事件を目撃してしまい、目撃してしまったことで犯人であるインジャン・ジョーという名の人物に追われてしまう話です。その後主人公達は、インジャン・ジョーに追われながらも、その犯人が隠した財宝を探す、という物語になっています。

その後ぼくはこの話が非常に好きだったので、親に頼んでまたマーク・トウェインの、『ハックルベリー・フィンの冒険』という小説を図書館から借りてきてもらい、読んでいました。今回の物語では『トム・ソーヤーの冒険』とは違い、脇役ではなく、主人公になっていて、まったく別のお話を楽しめる代物となっています。この物語では、過去にあった奴隷問題についても記されていて、悲しかったりおもしろかったりと人間のいろいろな感情が引き出されるような話になっています。

その後ぼくは3年ほど読む本を見つけられませんでした。たが、たまたま家にあったハリーポッターの小説を読ん

でいたら、それがとてもおもしろく、今まで読んできたものと違い、現実にはない物がたくさんあり、人の心情までもが細かく書かれていて、それで好きになってしまい少し前からずっと読んでいます。まだ読み終わってはいませんが、これからの展開が楽しみでなりません。そんなこの小説の内容は、主人公ハリーポッターが親友のロン、ハーマイオニーと共に魔法学校で起こる様々な事件を解決していくような物語となっています。

このように沢山の小説を読んできましたが、ぼくの心をつかめるような小説は今まで中々ありませんでした。もしかしたらぼくがたまたまそういう小説とめぐりあえないだけかもしれませんし、本当にぼくにあう小説が少ないのかもしれません。

本には人それぞれ好みがあります。ぼくはこのような小説が好みでしたがみなさんはどうでしょうか？ もしかしらばくと正反対の本が好みかもしれません。それでも気になったらぼくが紹介した本を読んでみたらいかがでしょうか？ これらの本はとてもおもしろく読み飽きることもありません。ぜひ、みなさんも一度は手に取ってみてください。



*「としょかんふれんず千葉市」は千葉市図書館の発展を望み活動しています。
ホームページはこちらから
URL <https://furenzu2021.wixsite.com/toshokanfriends>
または右のQRコードを読み取ってください。



行ってきました

千葉経済大学短期大学部とどろき祭司書課程講演会 千葉市中央図書館における特徴あるサービスの展開

講師：寺園雄一氏、宮道理氏

(市中央図書館情報資料課)

日時：2025年11月15日(土)10:30~12:10

会場：千葉経済大学総合図書館

千葉市図書館「千葉市地域情報デジタルアーカイブ」には、①『千葉市史』②『千葉市の町名考』③『千葉写真大観』④『千葉大系図』⑤『妙見信仰調査報告書』⑥『千葉市郷土かるた』⑦『千葉市オーラルヒストリー』があります。これらについて、市図書館職員による解説を聞きました。

アーカイブ全体の横断検索(「大賀ハス」など知りたい項目を入力すると、①~⑦から該当資料が出る)ができること、テキストと写真の切り替えができることなど、今まで気がつかなかった使い方があったことを知りました。多くの人に使ってもらえるよう、「こんな使い方がある」というPRを積極的に行ってほしいと感じました。(運営委員)

「千葉市社会教育施設保全計画〔公民館・図書館〕(案)」パブリックコメント手続きの実施結果

上記計画案について、市はパブリックコメントの回答を令和7年8月に公表、上記計画案は策定されました。

<パブリックコメントの結果>

- ▶意見の件数 79件
- ▶意見を反映した件数 3件
- ▶意見の概要と市の考え方は別紙に記載。

[02_public_commento_gaiyou.pdf](#)

傍聴しましょう

令和7年度第2回千葉市図書館協議会

日時：令和7年11月27日(木)10:00~

会場：千葉市消費生活センター 研修講義室
議事(予定)

- 1) 千葉市子ども読書活動推進計画(第5次)(素案)について
- 2) 千葉市社会教育施設保全計画〔公民館・図書館〕の策定について

傍聴：9:50から受付(当日先着順 定員15名)

落丁等ありましたら、右記連絡先までお知らせ下さい

第15回公民館フォーラム「公民館をもっと知ろう!」

11月29日(土)13:00~16:00

幕張公民館講堂

13:00~13:32 映画上映「公民館」

占領下、CIE教育映画として1950年製作

13:40~16:00 フォーラム

*基調講演「公民館の歴史から未来を考える」

講師：長澤成次さん(千葉大学名誉教授)

*報告「私と公民館と地域防災」

「地域に根差した公民館事業」

*グループトーク：公民館について

語り合いましょう

共催：千葉・月刊社会教育を読む会

千葉市公民館を考える会

うごき

10月2日(木) 運営委員会

10月12日(日) 第79回読書会

10月18日(土) 中央図書館読書まつり前日準備

10月19日(日) 第22回中央図書館読書まつり

10月19日(日) 読書まつり担当者会議(第2回)

10月27日(月) 学校教育部教育指導課面談

10月27日(月) 生涯学習部長面談

11月6日(木) 運営委員会

11月6日(木) 古本運び込み(2回目)

11月10日(月) 編集会議

11月20日(木) 会報88号発行

発行者

としょかんふれんず千葉市

代表 皆倉 宣之

【連絡先】事務局

メール furenzu2021@gmail.com

ホームページURL

<https://furenzu2021.wixsite.com/toshokanfriends>

年会費 一般1,500円 学生500円

郵便振替 00150-4-282943

